

独立行政法人放射線医学総合研究所の概要

1. 沿革

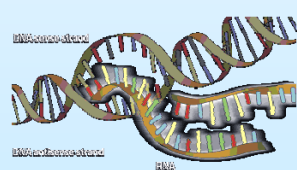
- 昭和29年の第5福竜丸事件を契機とした国民の不安を解消・原子力の平和利用を推進のため、昭和32年7月1日科学技術庁付属の国立試験研究機関として設立。
- 昭和61年のチェルノブイリ原発事故で帰国者の除染・調査を実施。
- 平成6年、重粒子線がん治療臨床試験開始。
- 平成11年のJCO事故で患者受け入れ・治療を実施。
- 平成13年4月1日に国立試験研究機関から独立行政法人化。
- 平成15年、重粒子線がん治療が高度先進医療に認定。
- 平成18年4月1日より第2期中期目標期間の開始、あわせて非公務員化。
- 平成20年7月に重粒子線がん治療登録患者4000名突破。

2. 業務の概要

- 放射線の人体への影響、放射線による人体の障害の予防、診断及び治療並びに放射線の医学的利用に関する研究開発
- 成果の普及及び活用の促進
- 施設及び設備の共用
- 研究者及び技術者の養成及び資質の向上
- 関係行政機関等からの依頼による放射線による人体の障害の予防、診断及び治療
(独立行政法人放射線医学総合研究所法より)

3. 所在地

- 千葉県稲毛区穴川4-9-1(茨城県ひたちなか市に支所あり)



細胞、動物等を用いた
放射線安全研究



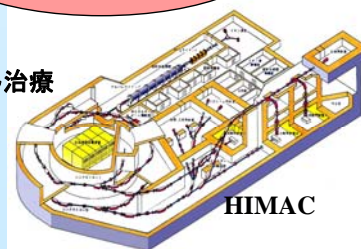
放射線の人体への影響
に関する研究開発

放射線による人体の
障害の予防、診断及び治療
に関する研究開発

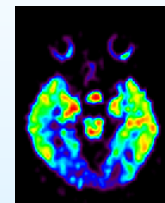
基盤技術

放射線の医学利用
に関する研究開発

重粒子線がん治療



分子イメージング



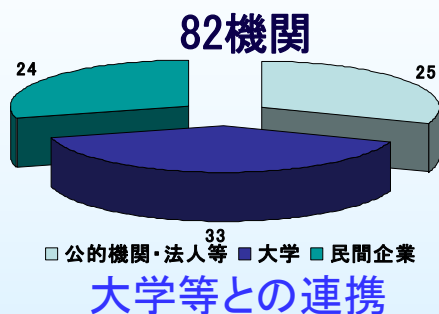
緊急被ばく医療



国内外機関との研究交流

(平成20年9月1日現在)

共同研究・研究協力(国内)



(包括協力協定)

平成18年度以前から:

京都大、広島大、長崎大、東北大、群馬大、福井大、
横浜市大、福井工業大学

平成19年度から:琉球大

平成20年度から:理化学研究所、財団法人癌研究会

(連携大学院)

平成18年度以前から:

千葉大、東工大、東邦大、東京理科大、群馬大
横浜市大、東北大、明治鍼灸大(現・明治国際医療大)

平成19年度から:広島大、新潟大

(機関協議会)

広島大、長崎大、放射線影響研究所

共同研究・研究協力(国外)

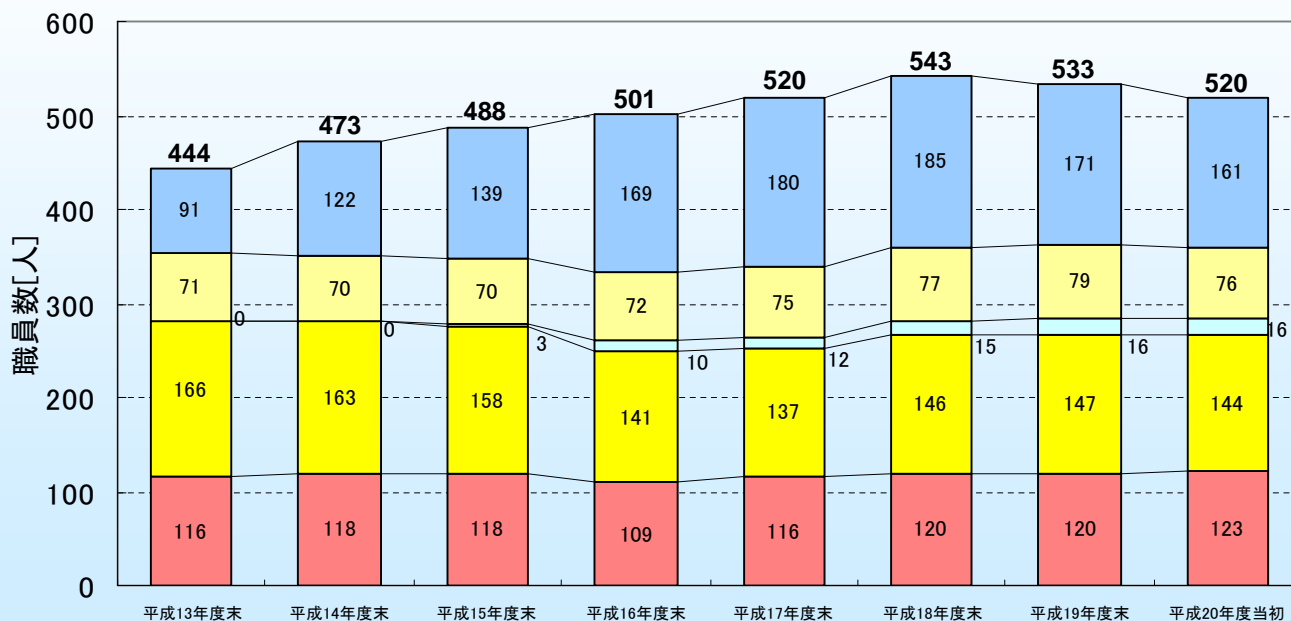
国際機関	IAEA
韓国	韓国原子力医学院
中国	北京放射医学研究所 中国放射線防護研究所
米国	オクラホマ州立大学
台湾	財団法人張榮發基金会(重粒子線医療研究院)
ウクライナ	ウクライナ放射線医学科学センター
イタリア	CNAO財団
オーストリア	インスブルック医科大学 ウィーン工科大学原子力研究所
ドイツ	ウルム大学 ドイツ航空宇宙センター 原子力庁ライフサイエンス局
フランス	ガニール原子核研究所 ジョセフ・フーリエ大学
ロシア	ロシア科学アカデミー生物医学問題研究所
セルビア	ヴィンチャ核医学研究所
ハンガリー	ハンガリー原子核研究所
ブルガリア	トラキア大学 ブルガリア科学アカデミー太陽地球影響研究所

受入研究員等

972名

放射線医学総合研究所の職員数の推移

■ 定年制事務職員 ■ 定年制研究職員 □ 定年制技術職員 ■ 定年制医療職員 ■ 任期制フルタイム職員



放射線医学総合研究所の予算の推移

■ 運営費交付金 ■ 施設整備費補助金 ■ 自己収入

